

知求会ニュース

2003年7月

第6号

◎ 国際学研究科主催第3回サテライト公開授業開催

「朝鮮半島をめぐる国際関係」という題で開催されました。会場は彩の国8番館産学交流プラザ9号室：JR宇都宮線・高崎線・京浜東北線さいたま新都心駅西口徒歩3分において、開講時間は全5回午後6時から8時45分まで。日程は、以下の通りです。

6月05日(木) 朝鮮半島情勢と有事法制 杉原弘修
拉致問題を考える 今井 直

6月12日(木) The Korean Peninsula and the United States
趙 全勝(アメリカン大学教授) 通訳：平田希水(大学院生)

6月20日(金) 中国と朝鮮半島 伊藤一彦
国交なき二つの「外交」－日本と台湾・北朝鮮－ 松金公正

6月26日(木) ロシアと朝鮮半島 清水 学

7月10日(木) 韓国の民衆の視点から 丁 貴連
中国民衆の視点から 倪 永茂

教材費二千円(全5回)、各回400円

問い合わせ先：磯谷玲助教授 isoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

◎ 2003年度講演会報告

「イスラームとグローバリゼーション－歴史的展望」と題して、ムスタファ・カマル・パシャ博士(アメリカン大学国際関係学部教授)による講演会が以下の日程で開催されました。司会・コメンテータに清水学教授が担当され、通訳に東京大学大学院総合文化研究科博士課程の坂梨祥氏が担当されました。また213名の方が聴講されました。

日時：6月11日(水)午後1時から3時30分まで

場所：宇都宮大学・大学会館2階多目的ホール

◎ 着任教官紹介その2

9月1日付けで外国人教師として、ハバナ大学教授ペドロ・モンリアル氏が3年間の契約で着任されます。大学院の授業ではラテンアメリカ社会論を担当され、英語で授業を進めるそうです。先生は、イギリスのオックスフォード大学やロンドン大学、アメリカのミシガン大学やプリンストン大学などの教授歴があり、最近の著作に編著作の「*Development Prospects in Cuba: Issues of an Agenda*, University of London, 2002」があります。先生の国際的な教授経験が活かされ、国際学研究科の知的進化に対する貢献を祈念いたします。

◎ 新刊案内

留学センター長の小池清治教授は、6月10日に角川書店の角川 one テーマ 2 1 新書から「近くて遠い国」と「遠くて近い国」は同じか？日本語に関する十の謎を、身近な言葉や古典の文章を題材に徹底解明された新書の「**日本語は悪魔の言語か？**」を刊行されました。日本語に興味がある会員のための必読書ですので、ぜひ一読されてはいかがでしょうか。

◎ 平成15年度修士論文中間発表会開催

毎年恒例の中間発表会が、**7月16日(水)**に開催されます。発表者は、国際社会研究専攻者20名、国際文化研究専攻者16名の計36名です。発表会の時間と場所は、以下の通りです。国際社会研究専攻 **13時から18時15分まで** 国際学部E棟1階 **1154教室**にて、国際文化研究専攻 **13時から17時15分まで** 国際学部E棟5階 **イメージ・ラボ**にて。なお、発表会終了後は、コモンルームにて懇親会があります。修了生諸氏は、後輩の叱咤激励に駆付けることを切望します。

◎ 宇都宮大学と同窓会の懇談会報告

5月22日(木)夕方6時から宇都宮大学本部第2会議室にて、大学側と同窓会の懇談会が行われました。来年4月からの独立法人移行に伴い、学長から大学同窓会の発足の希望が述べられました。出席者は、大学側から田原学長・粕谷副学長・北島副学長・後藤学長特別補佐・藤田国際学部長・中村教育学部長・西田工学部長・水本農学部長・岸事務局長・深谷総務部長・三竹経理部長・青山学生部長・新井教務課長・甲府田教務課長補佐の14名、同窓会側から教育学部同窓会の増田会長・金崎宇大支部長・小宮評議員・川島評議員・設楽事務局長、農学部同窓会の村松会長・和賀井副会長・稲泉理事長、工学部同窓会の吉沢会長・安達副会長・杉山庶務担当、国際学部同窓会の吉葉会長・岡本副会長・岡田副会長・阿久津理事、国際学研究科同窓会から土屋会長の16名、総勢30名でした。会議においてはそれぞれの同窓会の沿革と活動報告がおこなわれ、大学同窓会発足にむけて第2回懇談会開催予定が大学側から提案されました。

◎ 第2回交流会開催報告

今年の第2回交流会は、東京支部主催により **2003(平成15)年7月12日(土曜日)の午後1時から3時まで**、東京・西新宿の**新宿三井クラブ** (<http://www.shinjukumitsuiclub.gr.jp>)で開催予定でした。出欠の締め切り日である6月11日を過ぎても、8割以上の会員から返信がありませんでした。会の運営に支障をきたしましたので、残念ながら今回は中止にさせていただきました。今後の予定は、会員の動向をみて検討していきます。

フォーラム 第4号からこのコーナーをラテン語のフォーラムとします。梅雨の季節からいよいよ本格的な夏の季節を迎えようとしています。(原稿集めに苦労しています。)

今回、第6号に寄稿をお願いしたのは、お茶ノ水女子大学大学院に進学中である文化の丁研究室 OG の李さんとグアム留学中の社会・北島研究室 OG の津國さんです。

◎ **3期生近況報告** G u a m事情 津國若奈

現在私は University Of Guam の English Language Institute (米領 Guam) に来ています。5月6日に初めて会ったコーディネーターとホストマザーに会ったのが、もうずいぶん以前のことのような気がしてなりません。かといって、G u a mやここの生活に十分になれたか、といったら、そういう分けにもなかなか行きません。が、今回紙面を頂戴しましたので、こちらの様子を皆様にお知らせしたいと思います。

私が寄宿しているのは、UOGから徒歩10分ほどの所にあるコンドミニウム(分譲マンション; 70世帯ほど)で、チャモロ(先住)、フィリピーノ、マイクロネシアン、中国人、韓国人、白人、そして日本人(私)が住んでいます。寄宿先のホストマザーはフィリピーノー世の老未亡人で、毎日「米」とフィリピン料理を食しています。自室にはテレビ、冷蔵庫、机、ベッド、エアコンが完備していて料理もおいしく恵まれた環境といえますが、タガログなまりの英語とタガログ語(友人知人とはタガログ語を用いる)の会話に、ちょっと笑うに笑えない状況かもしれません。

グアムの人口は13-4万人ですが、約40%がチャモロ、30%がフィリピーノといわれており、島中どこに行ってもフィリピーノに出会うので、われわれ留学生は名字で識別しています。たとえばフローレスならチャモロ、クルースはフィリピーノ、といったように。

UOGがあるのは Mangilao (マンギラオ) という地区で、タモン、タムニン、アガニャといったリゾートホテル街とはG u a m国際空港を挟んで反対側に位置します。車で25分程度。島の南端にいくと小さな落ち着いた村が点在していますが、ここはもう少しダウンタウンに近いので、コンドミニウムが多く建っています。

こちらに来て驚いたのは、ほとんどの家で靴は脱ぐ、ということ。ただ、日本式下駄箱のようなシステムがないので、来客があると玄関前に海草履やらサンダルやらが並ぶので、すぐに分かります。それ以外に、チャモロもフィリピーノも(他の島嶼地域出身者も含む)主食は米、ということ。MARUYA というカリフォルニア米がメジャーですが、皆「日本米だ」と信じて疑わずに食しています。

G u a mは現在雨季。雨が降るときには気温が下がりますが、相変わらず暑い日差しが照り付けています。そして、そろそろ台風シーズン。フィリピン海で発生する出来立ての台風がやってくる日も近いことでしょう。次の機会があれば直撃台風の模様をお知らせすることができるかもしれません。

では、紙面も終わりに近づきましたので、先生方と皆々様と健康を祈りつつ。

(国際学研究科 国際社会研究専攻 第3期修了生)

◎ 1期生近況報告 <出会いー浅川巧研究を通して>

国際学研究科第一期生の李尚珍と申します。今はお茶の水女子大学大学院人間文化研究科で国際日本学を専攻しています。

特に、「浅川巧」を研究テーマとしています。浅川巧（1891～1931）は、植民地において「自分の個性を大切に思ふと同じく他人の個性をも尊重したらしい」（1922年8月27日日記）と訴えて、朝鮮の自然や伝統文化（白磁や民具など）を重んじ、自ら朝鮮の人々と真心の交流をした人です。私は、浅川巧の研究を通して多くの方々に出会い、彼の言葉の意味を学べる機会を与えてもらっています。

浅川巧研究の第一人者である津田塾大学の高崎宗司先生は日本人学生や留学生、他大学生に関係なく、研究室を訪れる学生を温かく迎えてくださり、勉強会を開いて交流の場を設けています。私も参加しています。そして、浅川巧の故郷・山梨県高根町の「浅川伯教・巧兄弟を偲ぶ会」の清水九規さんは、浅川巧に惹かれて訪れる人々に活動の内容を熱く話してくれます。韓国にも偲ぶ会のような「洪林会」があります。超在明幹事長（元山林研究院院長）は最初に浅川巧の記念事業を始め、多くの執筆者の世話をしてくれました。まだ新米の私を家族のように励ましてくれました。「浅川巧を思う会」の鄭好連代表は陶磁器販売店<陶遊>を運営しながら、韓国の陶磁器に関心を持つ人々には国籍・職業に関係なく集まりの場を提供し、毎年、浅川巧お墓参りの世話役をしています。浅川巧の親戚である中島保先生（元読売新聞記者・大阪経済法科大学教授）、浅川巧の葬式で教会総代を務めた三井栄長の子孫である日本大学の綾野怜先生も私の研究にとっても関心を持って励ましてくれます。また、様々な会合では歴史家の和田春樹先生や東京大学国際政治学の姜尚中先生など多くの方にお会いしました。私の話も丁寧に聞いてくれました。

このような方々は自分の個性を強く押し出すことなく、むしろ他人の個性をより尊重していると思います。「よき友達の一人でありたい」と願っていた浅川巧の気持ちが、立場に関係なく、多くの方々によって今日にも続いているように私には見えます。

私はまだ先生方のような素晴らしい「個性」というものを持っていません。しかし、このような出会いから、素敵な付き合いやその気持ちの持ち方などを学び、いつかは、いや近い内に「自分の個性を大切に思ふと同じく他人の個性をも尊重」（巧）できるような研究者になりたいと思っています。そのために今日も勉強しています。

（国際学研究科 国際文化研究専攻 第1期修了生）

編集後記：限られた時間でのニュース発行、同窓生の皆様のご感想はいかがでしたか？ぜひ、今後の紙面に反映させていきたいと思っておりますので、メールを下さい。また、皆さんの記事も受け付けますので、近況報告や研究報告などさまざまな情報をお寄せいただければ幸いです。 **同窓会会員の皆様へのお願い：**住所、勤務先およびメールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。 global@minakuru.net
